

次世代農林水産業創造技術 自己点検結果

#	審査の視点（平均点） 外部専門家のコメント	対応状況	理由
1	<u>研究開発の内容の重要性、妥当性（2点）</u> ①我が国農業は大きな転換点。食料安保の観点から、農業改革のグランドデザインをしっかりと踏まえた上で研究開発を推進すべき。 ②農林水産研究は、事業者が組織的・大規模に実施することは困難であり、国家の先導は妥当。巨大な未利用資源であるリグニンの異分野融合による利用研究は重要。藻類において、培養面積の確保に制限のある国内において、高付加価値品製造を目指す戦略は重要。 ③農業研究は、食料安定供給、地域振興等の観点から、国家が先導すべき重要な課題。作物栽培等に期間を要し、短期での品種開発は容易ではない。公募において、期間や目標値を示す場合は、評価が適性に行われるよう、スペック等について十分な説明が必要。	①反映済 ②反映済 ③検討中	①「1.(2)意義・政策的な重要性」に、政府の農業改革の基本的な方向について追記。 ②「1.(2)意義・政策的な重要性」に、農林水産研究において国家が先導する必要性について追記。リグニン、藻類利用研究では、より高付加価値製品を目指すよう、公募にも、その方向性を反映予定。 ③公募での反映を検討中。
2	<u>実用化・事業化への戦略性（1.3点）</u> ①ITやセンシング等を含む先端技術をどのようにユーザーにパスしていくかの視点が重要。大規模経営を行う企業体としての担い手をターゲットとすべき。 ②農業研究は生産者重視の傾向。マーケティングに基づく研究をしっかりと取り組むことが重要。 ③遺伝子組換えを活用した新たな育種については、成果が社会に受容されるよう、社会面、政策面での積極的な取り組みが必要。また、成果が6次産業化等の政策に結び付けられることを明確にする必要。IT等の利用技術の実用化のため、圃場実験を十分できる体制が必要。	①反映済 ②反映済 ③反映無	①「6.出口戦略」に、企業的な経営を行う担い手をターゲットの基軸として設定する旨を追記。公募にも、その方向性を反映予定。 ②「6.出口戦略」で、品種や食品の開発等において、消費者ニーズを十分踏まえて、研究に取り組む旨を追記。公募にもその方向性を反映予定。 ③「2.研究内容」、「6.出口戦略」で既に対応方針について記述しているが、指摘を踏まえてしっかり対応したい。
3	<u>組織間連携（産産、産学、府省）の有効性（1.7点）</u> ①シーズ発想や連携自身が目的化しないよう、出口からバックキャストし、目標達成に不可欠な連携に取り組む発想が重要。 ②官庁は、各セクションが強い責任を有しており、縦割り・保守的な性格が根強い。府省連携は容易ではなく、連携のための一層のマネジメント努力が必要。 ③生産システム、育種、新機能開拓の3本柱が個別の取組みとならないよう、各柱が重層的に連携する必要。	①反映済 ②反映済 ③反映済	①「1.(2)意義・政策的な重要性」に、目的達成に向けて必要な府省間・異分野間の連携の基本的な考え方について追記。 ②「1.(2)意義・政策的な重要性」に、目的達成に向けて必要な府省間・異分野間の連携の基本的な考え方について追記。 ③「1.(2)意義・政策的な重要性」に、各柱が連携すべき旨を追記。
4	<u>その他特記事項</u> ①3本柱は、企業活動の製造、商品開発、マーケティングにたとえることができる。大きなビジョンの下、体系的に研究開発に取り組むことが重要。 ②世界トップレベルに目を向けて、各分野の研究者が、分野間の壁を取り除き、協働すれば、世界をリードする農林水産技術を確立できると考える。 ③公募においては、若手研究者等、小規模でも、斬新なアイデアが採用されるよう配慮が必要。	①反映済 ②反映済 ③検討中	①「1.(2)意義・政策的な重要性」に、目標達成に向けて、各分野が体系的に取り組むべき旨を追記。 ②「1.(2)意義・政策的な重要性」に、世界トップレベルに目を向けて、府省間・分野間の壁を取り除き、協働すべき旨を追記。 ③公募での反映を検討中。

※点数は以下を基準にしています。

0点：改善が必要なもの

1点：妥当であるもの

2点：優れているもの